

| | |
|---------|---|
| 氏名 | 藤 井 伸 治 |
| 授与した学位 | 博 士 |
| 専攻分野の名称 | 医 学 |
| 学位授与番号 | 博乙第 3679号 |
| 学位授与の日付 | 平成14年3月25日 |
| 学位授与の要件 | 博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当) |
| 学位論文題目 | Expression of minor histocompatibility antigen, HA-1, in solid tumor cells (マイナー組織適合抗原HA-1の固形腫瘍細胞における発現の検 討) |
| 論文審査委員 | 教授 中山 睿一 教授 赤木 忠厚 教授 田中 紀章 |

学位論文内容の要旨

マイナー組織適合抗原 (minor histocompatibility antigen: mHag) は同種造血幹細胞移植後の移植片対宿主病 (graft-versus-host disease: GVHD) の標的抗原である一方で、移植細胞による抗腫瘍免疫効果、いわゆる移植片対白血病 (graft-versus-leukemia: GVL) 効果にも関与している。近年、一部の固形腫瘍に対しても同様の効果を認め、移植片対腫瘍 (graft-versus-tumor: GVT) 効果の存在が示唆されている。我々は、mHag のひとつである HA-1 の発現について、固形腫瘍細胞、固形腫瘍組織とその隣接する非腫瘍組織について RT-PCR で検討した。さらに、定量的 RT-PCR を用いて HA-1 mRNA を測定し血液由来細胞と比較検討した。RT-PCR による検討では、血液由来細胞、組織検体のすべてに、また固形腫瘍細胞株 32 種類中 17 種類に HA-1 の発現を認めた。さらに、定量的 RT-PCR によって、B 細胞性の細胞株 Raji に対して 50% 以上の発現量を持つ固形腫瘍細胞株が 7 種類存在することが明らかになった。この結果により、HA-1 が GVT 効果の標的となりうる可能性が示された。

論文審査結果の要旨

マイナー組織適合抗原 HA-1 は血液由来細胞に強く発現していることが知られている。本研究は、HA-1 の固形腫瘍における発現を RT-PCR 法で検討したものである。その結果、固形腫瘍細胞株、固形腫瘍組織、隣接する非腫瘍組織において、HA-1 mRNA は血液由来細胞よりは低いが、発現を認めた。この知見は、同種造血細胞移植後の移植片対宿主 (GVH) 反応の解明に重要であり、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。